

コロナ対策にプラス！安心して風俗を楽しむためにできること

ウィズコロナで風俗はどうする？ リアルのセックスは危険？
身近なコロナと性感染症。より安全に楽しむために、できることから始めよう。

お店からの協力のお願いを確認しよう

マスクをつける、換気をする、
キスは控えるなど感染予防に協力
しよう。また本番行為はダメなど



ルールを守ろう。パートナーを限定したり、
お店のルールを守るとお互い
安心して楽しめるね。



「マスク」に「コンドーム」をプラス！

セックスも、かわいいマスク、かっこいいマスクで
楽しもう。性感染症予防には、コンドームも粋に選ん
で、お互いを守ろう。



「手洗い」に「シャワー」をプラス！

流水とせっけんを手だけではなく、性器や肛門も
含め全身をよく洗おう。うがいもしよう。



キスやアナル(肛門)舐めを控える

唾液や便にコロナウイルスを含めたいろんな病原
体がいるよ。キスをする時は前後に水分を飲んで、
相手に渡さない、相手からもらわないように。
オーラル・アナルセックスのときは
ペニスにコンドームをつけてね。



体調が悪い・何か変なら無理せず休む

症状がある・感染の心配があれば、風俗利用は控え
て。コンドームだけで予防できない性感染症(梅毒、
毛じらみ)もあるよ。検査や受診をお勧めします。



定期検査やワクチン接種をしよう

性感染症の早期発見のためには定期検査を行うと
安心だね。セックスの前に、コロナも性感染症(ウイ
ルス性肝炎、尖圭コンジローマ・子宮けいがん・陰茎
がん=HPV)もワクチンを打っておくと良いよ。



厚生労働科学研究費「性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究」(三鴨班)事業
一般社団法人日本性感染症学会 教育啓発委員会 (2022年12月12日作成版)

この資料はニューヨーク市健康局作成のガイダンス「Safer Sex and COVID-19」を一部参考にしています

感染のしくみと予防の仕方

★新型コロナウイルス★

唾液や飛沫、エアロゾル、唾液、便などが、目や鼻、口に入ることによって感染するよ。飛沫、エアロゾル、唾液対策をとって、ウイルスが体に入らないようにしましょう。



★性感染症★

性器や体液、口や肛門が、相手の性器や口、肛門に触れることで感染するよ。コンドームやオーラルセックス用ラバー(食品用ラップで代用できる)を使おう。というのは理想で、難しい時もあるよね。だからできることを考えましょう。

コンドームの達人が教える
コンドームの正しい着け方



完璧じゃなくてもいいよ！自分にできることから始めよう

ワクチンを打つ

コロナだけでなく性感染症にもワクチンで防げる病気があるよ。 ◆B型肝炎 ◆ヒトパピローマウイルス(HPV)感染症(子宮けいがん、陰茎がん) ◆A型肝炎

リスクを減らす

コロナも性感染症も、症状がなくても、病気がうつることがあるよ。また、お互いの体調が万全でない時は「セックスをしない」という選択をすることも必要だね。

- ✓多くの風俗の従業員は検査で発症前の梅毒を発見していますが、症状の有無で安心しないで
- ✓フェラしてもらったら、早めにおしっこ(排尿)しよう。
- ✓シャワーで体を洗う、おもちゃやスマホもアルコールウェットシートで拭こう
- ✓唾液や体液、便が手についたら石鹸で手を洗う、目や口、性器を触らない

コロナ

- ✓キスの前後にうがい、コップ一杯の水を飲む
- ✓横に並んで座る、後ろからハグ、体位の工夫(バックなど)
- ✓会話は控えめに、大声でなく、ささやくように・・・(喘ぎ声も絶叫注意?!)
- ✓窓がない狭い部屋は扉に向かって空気を流し排気をしているか、確認しよう!
- ✓複数人でのセックスは控える

検査・相談する

保健所に検査や感染の不安について相談できる窓口があるよ。

コロナ 検査できる医療機関は都道府県の窓口でたずねよう。

性感染症 保健所で HIV/性感染症検査(無料・匿名)ができるよ。

コロナの相談



厚生労働省 HP

HIV/性感染症検査・相談



HIV 検査相談マップ

性感染症の知識



日本性感染症学会 HP

受診・治療する

治療は自身の体を守るだけでなく、客やパートナーへの感染予防にもつながるよ。

コロナ だるさ、熱や咳、のどの痛み、味覚/嗅覚の異常があれば、いつも診てもらっている医療機関(内科、耳鼻咽喉科など)に電話連絡をしてから受診。

性感染症 性器やのど、肛門、皮膚の状態がいつもと違う時(かゆい、いたい、イボイボができた等)は受診。男性は泌尿器科、女性は婦人科、男女ともに性病科、気になる体の場所により耳鼻咽喉科、肛門科、皮膚科などで診て検査もしてもらってね。

パートナーに話

感染が分かったら、早めにパートナーに伝えよう。伝えてもらった人は、症状がなくても検査、受診をしよう。コロナも性感染症も、パートナーに伝えることは思いやり。